

学 園 だ よ り

太 白 山

(令和3年度 秋号)

宮城県さわらび学園

〒982-0215

仙台市太白区旗立2丁目4-1

TEL : 022-245-0333

FAX : 022-245-0515

<http://www.pref.miyagi.jp/sawarabi/>

学園ホームページもご覧ください

毎年恒例の学園祭が 開かれました！

昨年度と同様、今年度の学園祭も新型コロナウイルス感染症対策として縮小開催となりました。保護者や関係機関の方々の来場についても制限し、検温や消毒、換気等も徹底して行いましたが、子どもたちは素晴らしい発表をしてくれました。

メインの発表は「意見発表」と「和太鼓演奏」です。意見発表では、学園で頑張りたいこと、自分自身の課題について、学園の先生たちなど、子どもたちそれぞれがテーマを決めて発表しました。事前の練習では苦戦しているところも見られましたが、本番ではしっかりと自分の気持ちを発表することができていました。和太鼓演奏は分教室が主体となって行われる出し物で、各パートに分かれながらもそれぞれが合わさっての一体感のある演奏が魅力です。本番でも満足のいく発表ができたようで子どもたちはとても良い表情をしていました。子どもたちが頑張った様子について、作文と写真から少しでも伝わればと思います。どうぞご覧ください！

児童作文

「学園祭を通して」

中学二年 H

僕の学園祭での自己評価は九〇点です。目標であった「学園祭をカッコよくやる」ということが達成できたと思います。意見発表ではどこに意識を置くかによって物事が大きく変わるといふことを学びました。どうすればカッコいい意見発表ができるかと考えたときに、相手に伝えるということに意識を置きました。一見当たり前だと思いますが、今までの自分の発表の機会では緊張してしまい、ただ読み上げるだけになっていました。本番では相手に伝えることに意識を置いてカッコよく発表することができました。太鼓では全力でやる素晴らしさを学びました。練習の時からどうやればもっといい音が出るのか、どうやればもっと大きく動いているように見えるだろうかと自分なりに工夫しました。一回目より二回目、二回目より三回目と良くなるような工夫をしました。工夫をするということは、その物事を全力でやっている証だと思えます。本番での演奏が一番カッコよくできました。これが九〇点の理由です。ではなぜ一〇〇点ではないのですか。

学園祭写真

それは練習ではしなかったミスをしてしまっただけです。緊張を味方につけることが新たな課題です。でも目標を達成することができてよかったです。また自信ができました。



みんなのお楽しみ

クリスマス会！

子ども達お楽しみ会のクリスマス会が十二月十七日に開催されました。子どもだけでなく大人も楽しむというところが学園クリスマス会の魅力です。各寮の出し物を始めとして、おいしいチキンやケーキを食べたり、サンタさんからプレゼントをもらったりと、子ども達はとても満足そうな表情を浮かべていました。

「児童作文」

「今日のクリスマス会」

中学一年 T

僕はクリスマス会を始めてやりました。楽しかったこと、緊張したこと、嬉しかったことは二つあります。

一つ目の楽しかったことと緊張したのは二寮の出し物です。最初はそれを聞いたとき頭が真っ白になりました。覚える言葉も多くて、できるかな安だったけど本番になってちゃんと覚えて良かったです。そのおかげで成功しました。

二つ目の嬉しかったことはクリスマスプレゼントがもらえたことです。希望したCDと多肉植物が来たので嬉しかったです。ありがとうございます。

した。

今日のクリスマス会があつてとても嬉しかったです。各寮の出し物もすごくみんなの笑いをとれるような仕組みになっていてすごかったです。昼食のチキンや寿司やケーキやポテトもとてもおいしかったし、おやつもジュースやゼリーなどとてもおいしかったです。明日からの生活も楽しく仲間と過ごしつかりとしていきたいです。

「クリスマス会の感想」

高校一年 N

十二月十六日のクリスマス会はとても良いものとなりました。昨年は入所が遅かったこともあって見る側での参加でしたが、今回は演じる側をしました。すみれ寮は「浦島太郎」をモチーフとしたものをつくりあげました。つくるにもなって役や文章を覚えることなどとても大変でした。一人一人が役になりきっているのは、一人一人の個性が見えているからかもしれません。私はハンギョドンの個性を演じることができました。他の寮の出し物などもとても良かったです。見る喜び、演じる喜び、協力する喜びなど、本当にクリスマス会ができて良かったと思います。

クリスマス会写真

クリスマス会を実行するにあたって、子ども会の先生をはじめとする学園、分教の先生、そしてみんなの良いクリスマス会ができて良かったです。ありがとうございます。



「児童と職員みんなの思い出」

すみれ寮長 今野直子

令和三年度すみれ寮は、児童一名で始まりました。職員は、前年度から継続の三名と人事異動等で入れ替わった三名の計六名体制です。児童はその後、一人、また一人、またまた一人と増えて、現在四名です。

今年度もコロナ禍の影響を受けて活動が制限されるということもありますが、生活にメリハリを付けられるように、可能な範囲で楽しい活動も行ってきました。残暑厳しい九月には、寮の前でバーベキュー。定番のカルピヤハラミの他に、ある児童の希望で購入した豚レバーがみんなに好評でした。デザートは差し入れの梨とビンゴゲームの賞品アイスでしたね。お腹を満たした後は、最後の片付けまで、しっかり協力できました。

十二月は学園恒例のクリスマスお楽しみ会。今年、職員も含め個性派揃いのすみれ寮は、日本昔話「浦島〇〇郎」に挑戦しました。台本制作から、大道具、小道具、衣装制作、歌やダンスに迫真の演技。もしかしてノンフィクション？とってしまうような出来映えで、会場の笑い取ることも出来て自画自賛でした。終わった後の不思議な余韻に浸っていたのは私だけでしょうか？

十二月から一月には、だいふ古くなっていた食堂の壁面飾りを新しく製作しました。簡単に完成するものと思っていたのですが、これがなかなかの時間を要し、最後は疲れ果ててしまいました(笑)。しかし、掲示物を見た他の寮のみんなから褒められ喜ばれ、頑張った甲斐がありました。

一月には寮内で手作りのおかめひよつとこ福笑いをして、黒板に貼られたおかめひよつとこから、未だ見つめられています。夜にトイレに行く時、「怖い」という声も・・・。



ここまで、すみれ寮児童と職員合わせて十名の協力あつての思い出です。

コロナ禍で制限される生活が続きますが、次にどんな楽しい活動を取り入れるか現在模索中です。楽しい活動での満足や達成感の先にはもちろん、それぞれの成長を期待しています。

「家族支援の役割」

家族支援担当 野村美江

家族支援を担当し、二年目となりました。初年度は、さわらび学園という職場自体も初めてで、分からないづくしでしたが、今年度は少し余裕も出てきたように感じます。

学園での家族支援は、基本的には寮の先生方の業務を支え、補助する裏方的役割を担うことが大きいです。

国の提唱する家族支援の役割は、本来であれば、もつと積極的にケースワークに関わるものであると読み取れ、二目目の今年度は、自分自身でも積極的に関わることを目指し、工夫してきた一年でした。

その中で、昨年度よりは子ども達やそのご家族との関係性を深められたように感じますが、反面、寮の先生方と子ども達、そのご家族との信頼関係や絆の深さを、より一層強く感じるこ

ともなりました。

退所後のアフターフォローは、家族支援担当が主導となって取り組むことになってはいますが、在園中に関わってくださった寮の先生方のお力は、必要不可欠です。

悩み、苦しむ多感な時期に、濃い密度で、本気で向き合い寄り添ってくれる大人が存在することは、学園の子ども達とそのご家族にとって、大事な宝物のような経験となるでしょう。

そして、退所の際には皆一様に、立派な姿を見せてくれることに、私自身大きな感動を覚えます。

ご家族の皆様には、子ども達の努力を前向きに受け止めて頂くとともに、苦しい時でも、ご家族として共に寄り添って歩んで頂きますよう、ご協力よろしくお願いいたします。

私達も微力ながら、精一杯努力していきたいと思えます。



「今年度の作業の取り組み」

作業係 佐藤光平

さわらび学園の作業内容は、主に①畑・花壇整備、②環境整備、③寮内外の掃除、の三つです。寮毎に畑や花壇の大きさや寮周辺の敷地面積は違いますが、全児童・職員が一体となって取り組む姿は素晴らしいものです。

今年度のさわらび学園の作業目標は、昨年度と同様『生活の場である学園の環境整備、農作業等一生懸命に行うことで、一体感・達成感・忍耐力の工場を目指す。』です。昨年に引き続き、新型コロナウイルスの影響で園外に出る機会が減少し、特に男子児童はストレスを溜めているため、作業を通じて体を動かすことでその発散になるよう努めています。

今年度は天候にも恵まれたため、野菜や花の生育状況は非常に良く、野菜に至っては各寮ともに大収穫でした。私の所属する広瀬寮は、今年度は野菜の生育に力を入れていたため、冬の期間中に児童を中心に天地返しを何度も行い土作りを大切にしました。その成果もあり、夏野菜や秋野菜の収穫状況は昨年度と比較しても豊作であったことが分かりました。

しかし今年度は、夏にイノシシの被害

害にあり、ジャガイモを食べられてしまったため、想定収穫量よりは大幅減ってしまいました。天候だけでなく害獣対策も必要であると痛感した一年でありました。

今年度は各寮の作業の取り組みを新聞形式にして作成し、様々な職員に評価してもらい、その寮の頑張り共有する新たな取り組みを実施しました。春夏秋冬毎の内容を児童・職員で思い出しながら作成をして、各寮毎にレイアウトを施して完成です。今年度は三回を実施し、内二回は広瀬寮が優勝しています。秋の新聞は現在審査中です。作成時は、児童達が作業場面を思い出しながら、振り返りを行い、次の季節の作業に向けての目標も同時に考えています。作業を通じて目標を設定する大切や新聞を完成させるために仲間達との協調性や努力することの重要さを養っています。

来年度の目標としては、今年度より野菜の収穫量を上回ることです。天候や害獣の対策を施しながら、児童・職員全員で一生懸命取り組んでいきます。

「学習係から」

学習係 都澤 智洋

さわらび学園では毎日寮内で自習の日課があります。昨年度までは、人來田小中学校分教室から課題が出され、それに取組む児童が多かったのですが、今年度から寮で自習課題を用意して、実施する態勢になりました。定期考査の前には、分教室から課題が出されます。児童の様子を見ると、分教室から出された課題に対しての方が、自分の課題と合っているためか、考査でしっかりと足跡を残したいと思っ

か、取組みは良好です。分教室では、児童一人一人の実態に応じて課題を設定していただいているので、児童は学習内容が『分る』ということ積み重ねて、自信を深め、結果として自己肯定感を高められる好循環につながっています。児童達の日々の学習支援に取組んでくださる、分教室の職員の方々には感謝の気持ちでいっぱいです。

自習時間進捗確認表への記入は、継続して行なっています。初めはただ『がんばりました』だけの記入で終わっていた児童が、教科のどんな単元に取組んだかも記入できるようになっています。学習への意欲が前向きに変わ

わってきた証かと思えます。

漢字検定試験は、年度内に三回実施しています。一級ずつ上を目指す児童もいれば、飛び級で自分の受験したい級を決める児童もいます。漢字検定の受検が近付くと、自習の課題を漢字検定の問題に切り替えたり、それぞれの児童の実態に合わせたやり方で対応しています。学ぶことの面白さ、大切さを児童達が実感できれば、何よりです。

今後の行事予定（抜粋）

- ・二月九、十日 期末考査
- ・二月二五日 卒業証書授与式
- ・三月二四日 修了式

編集後記

まだまだ寒い時期は続きそうです。昨年もさわらび学園の児童、職員への応援、支援等ありがとうございました。今年も学園の様子を少しでもお伝えできるよう頑張っていきたいと思えます。どうぞよろしくお願ひします。